

著者紹介

笹本 正治（ささもと しょうじ）

信州大学人文学部教授。博士（歴史学）。1951年山梨県敷島町（現、甲斐市）生まれ。1974年信州大学人文学部卒業。1977年名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期修了。1977年から名古屋大学文学部助手、1984年より信州大学人文学部助教授。1994年より現職。

中世から近世にかけての日本史を専攻。戦国大名武田氏、職人・商人史、音や場を通しての心性史、災害文化史、山村史などを研究している。

山梨県文化財保護審議会委員、山梨県史編纂委員などを勤める。

著書に『戦国大名武田氏の研究』（思文閣出版・1993）、『蛇拔・異人・木霊—歴史災害と伝承—』（岩田書院・1994）、『中世の災害予兆』（吉川弘文館・1996）、『武田信玄』（中公新書・1997）、『鳴動する中世—怪音と地鳴りの日本史』（朝日選書、2000）、『戦国大名の日常生活—信虎・信玄・勝頼—』（講談社選書メチエ、2000）、『山に生きる』（岩田書院、2001）、『異郷を結ぶ商人と職人』（中央公論新社、2002）、『災害文化史の研究』（高志書院、2003）、『戦国大名と信濃の合戦』（一草舎、2005）、『武田信玄—芳声天下に伝わり仁道寰中に鳴る—』（ミネルヴァ書房、2005）、『実録戦国時代の民衆達』（一草舎出版、2006）、『軍師 山本勘助』（新人物往来社、2006）、『天下凶事と水色変色—池の水が血に染まるとき—』（高志書院、2007）などがある。